



エコトピア

第14号

発行：環境フォーラム湖東 (平成21年10月)
 ■ 〒522-0071
 ■ 彦根市元町4-1 湖東環境・総合事務所 環境課内
 ■ TEL 0749-27-2210 ■ FAX 0749-27-1688
 ■ URL <http://www.f-koto.org/>
 ■ E-mail info@f-koto.org

アタック 企業の環境行動

琵琶湖の生物多様性を守る ～大日本スクリーンの取組み～

大日本スクリーンは、「人と地球に優しい環境形成の技術を追究」し、「世界の人々が自然と共に豊かな未来を共有できる社会の実現に貢献」することを環境理念として掲げています。当社は、1963年に滋賀県の彦根市に製造拠点として事業所を開設以来、琵琶湖の環境保全に対する取組みを積極的に進めています。

環境ボランティア活動

1992年から毎年実施している河川清掃活動。毎年2日間で延べ200名を超える当社グループや協力企業の社員のボランティアが、事業所前の太田川や地元高宮町周辺の河川清掃に参加しています。

最高水準の新排水処理設備

2006年に新設した排水処理設備は、高度な処理技術を採用し、厳しい水質規制を重視した設計となっています。具体的には、幾重もの化学的処理方法や微生物処理を採用すると共に最新式の集中監視システムを導入。また水質向上強化のための凝集沈殿処理設備を設置し、放流基準を大きく上回るレベルで河川へ放流しています。

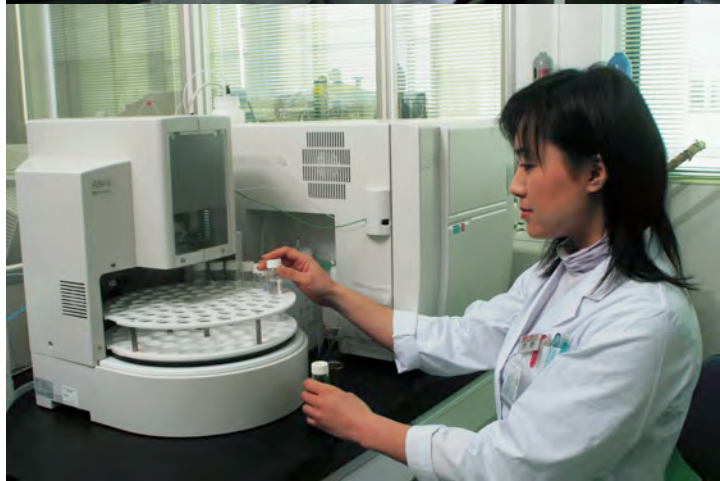
その他、当社は地元の大学と水中ロボットの共同研究を行っており、琵琶湖をはじめとする湖水環境や船への付着微生物による海洋環境問題への取組みを進めています。

今後とも、当社は環境理念の実現に向け、「技術の追究」を通して環境問題に取り組んでいきます。

詳しくは、当社の公式ウェブサイトに掲載している「社会環境報告書」をご覧ください。

<http://www.screen.co.jp/kankyo/index.html>

コーポレート 総務・環境戦略室



夏原工業は、試料採取から環境測定・分析、解析及び環境設備の提案まで一貫作業を行い、環境管理をトータル的にサポートしています

夏原工業は廃水処理施設の維持管理を主な業務として創業しました。このため、早くから公害防止に取り組み、水はもちろん大気、土壌などを測定・分析する技術を蓄積してきました。そして、現在のように環境問題が注目される以前の1988年、環境サービス事業部を立ち上げ本格的に環境ビジネスをスタートさせました。

こうした背景から、有害物質を測定・分析するだけでなく、その結果に応じて、廃水処理施設の設計・施工、排ガス処理装置の維持管理、焼却炉のメンテナンス・改造・解体、などハード部門までご提案することにより、お客様の課題をトータルに解決いたします。

更には今年10月より、太陽光発電システム販売設置事業を発足します。

この太陽光発電を普及させる事が、地球環境の維持と化石燃料の枯渇からの脱却に大いに貢献できると思えます。

夏原工業はこれからも、トータル環境ソリューション企業として、「地域環境」更には『地球環境』に対しても貢献するCSR（社会的責任）があると考えます。

夏原工業はチームマイナス6%企業として地球環境に貢献します。

湖東の生き物の仲間



オナガガモ（冬鳥）

名前のとおり尾が長く、頭の側面から胸にかけて白色が目立つ、地味な色の方は雌鳥で琵琶湖や周辺のため池などにマガモ、コガモに混じって岸辺や田んぼに生えている水草の種子を好んで食べる水面採餌ガモです。

(西澤一弘)



彼岸花（マンジュシヤゲ）

人里に近い所に群生する多年草。中国から渡来したものが広がったと言われる。田んぼの畦に多く見られたのは食糧不足の時期、球根に毒（アルカロイド）があるものの水に7回ほど浸すと抜けるので料理できたらしい。

(西澤一弘)

■琵琶湖の水質を守る責任は誰にあるのか

「仮想水」あるいは「見えざる水」という言葉がある。

たとえば、あなたがマクドナルドで最近人気のクォーターパウンダーを食べたとしよう。クォーターパウンダーとは四分の一パウンドの重さのビーフパティ（牛肉）を使ったハンバーガーという意味だ。牛肉を作るためには、家畜にやる水も必要だが、それ以上に飼料となる穀物を栽培するために大量の水を必要とする。特に牛肉の生産に必要な量は他の農作物と比べて桁違いに大きく、四分の一パウンド（約113グラム）の肉なら二トン（m³）以上の水を必要とする。一般家庭なら三日分の水道使用量に相当する量だ。ところが日本のマクドナルドの場合、ビーフパティはすべて海外から輸入されているのである。

ということは、私たち日本人がクォーターパウンダーを一個食べることで、日本ではなく、牛肉を生産した国で約二トンの水が消費されることになる。つまり、ビーフパティ一個を輸入するとは、それだけの量の水に見えない水を輸入することに等しいのだ。このような水のことを「仮想水」と呼ぶ。わが国は毎年、国内で使用するより多くの水を仮想水の形で輸入しており、「仮想水の輸入大国」といわれている。

ここで忘れてならないのが、使った水はかならず汚れるということである。農作物を海外から輸入するとは、その国の水を消費すると同時に、その国の川や湖などを汚しているということに他ならない。私はこれを「仮想汚濁水」と呼んでいる。

一方、このような仮想水や仮想汚濁水の移動は海外との間だけにある話ではない。国内でも、生産に水を必要とするおよそすべての製品について、移動があれば、仮想水と仮想汚濁水の移動もある。一つの例が、琵琶湖を抱える滋賀県と、湖からの水に大きく依存している下流府県（京都、大阪、兵庫）との間に見られる移動である。

よく言われるように、琵琶湖の水を飲んでいる人口は近畿一千四百万人に上る。このうち滋賀県民は百万人にすぎない。湖の水を飲んでいる人口は圧倒的に下流府県のほうが多いのだ。と同時に、それら下流府県に対して、滋賀県は大量の農作物や工業製品を移出しているという事実がある。

ビーフパティと同じことである。農作物や工業製品を作るために大量の水が県内で消費されている。そして滋賀県の場合、消費され、汚れた水はそのほとんどが琵琶湖に流れ込んでいる。私の計算では、経済活動に伴い湖に流入している汚濁の約八割が県外に移出されるものを作るために発生したものである。その半分が下流府県向けの生産から生じている。滋賀県民のために流入している汚濁は二割にすぎない。

下流府県の人たちはこのように、琵琶湖から流れ出た水に依存していると同時に、仮想水の形でも湖に大きく依存している。また、一面では、自分たちが汚した湖の水を飲んでいるといってもいいだろう。

琵琶湖の水質を守る責任——それは湖の水に生活を支えられているすべての人々にあることを私は訴えたい。



滋賀県立大学
環境科学部 教授

井手 慎司

環境フォーラム湖東からのお知らせ

環境フォーラム湖東特別会員
滋賀県 彦根市 東近江市 豊郷町 甲良町 多賀町

湖東地域環境シンポジウム つばめラボ2009

11/14 (sat)

11:00 ミニコンサート
出演 日本よし笛の会

11:20 つばめラボ表彰式

11:30 ツバメ記念講演
講師 北村巨さん
(東京大学 生物多様性科学研究室)

13:00~16:00 X'masキャンドル&エコグッズづくり体験

主催：環境フォーラム湖東

会場・受付 ビンテージ1階センターモール

みんな、ボクたちのこと見てくれたかな？

お問い合わせ先：
環境フォーラム湖東事務局
(湖東環境・総合事務所環境課)
TEL:0749-27-2210 E-Mail: info@f-koto.org

同時開催
11/13(FRI)~19(THU)
つばめラボ
湖東の環境活動パネル展
於：センターモール

エコサロンは琵琶湖のほとり、湖東地域で環境に関心のある人々をつなぐネットワーク団体「環境フォーラム湖東」の交流会です。環境問題に関心・興味のある方、取り組んでいる方、ゆっくりお茶でも飲みながら、語り合いませんか？

目からウロコの たなぼた交流会

2009年十一月二十七日(金)午後7時~9時

場所：湖東合同庁舎サークル室
彦根市元町四一
074912712210

持ち物：マイコップ・マイ箸
参加費：300円 お茶・お菓子付
申込締切：11月24日(火)

<話題提供者>
彦根城オニバスプロジェクト
代表 渡邊 輝世さん
「オニバスの保全活動について」

環境フォーラム湖東